

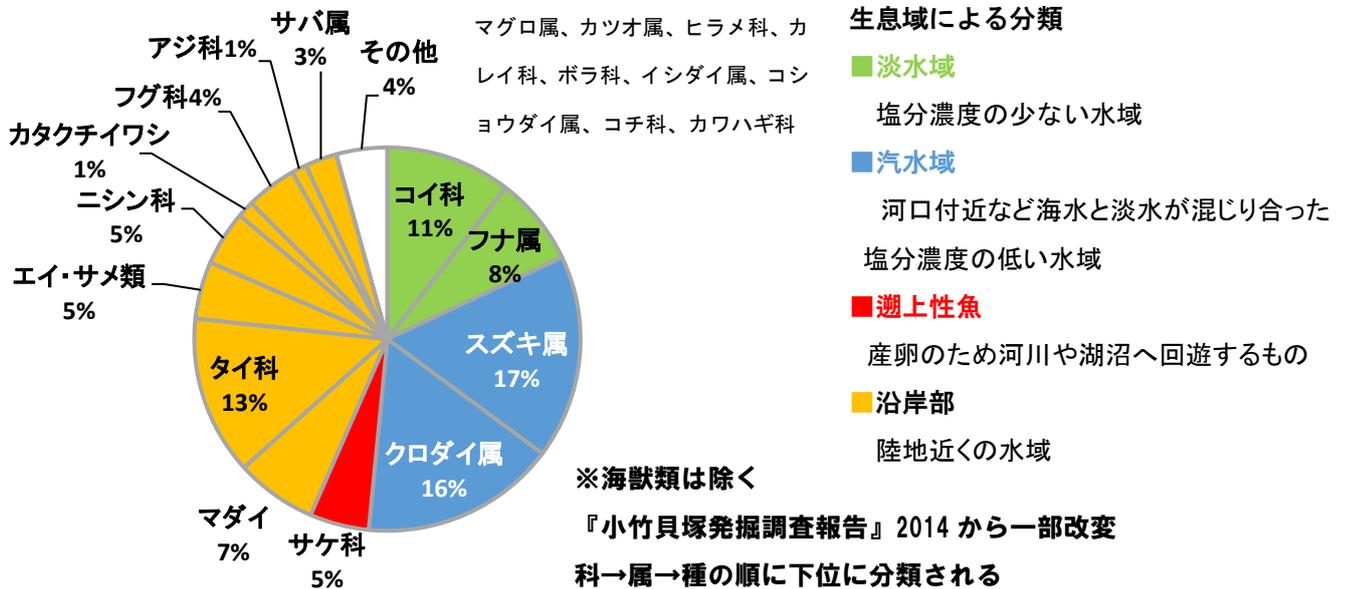
小竹人のお魚事情—その2 (漁場)—

富山県埋蔵文化財センター

小竹貝塚は富山市北西部の呉羽地区に位置し、北は射水平野に隣接し、南は呉羽丘陵から続く丘陵の一部に接しています。射水平野は大部分が潟埋積低地であり、現在の風景からは想像も付きませんが、かつて縄文時代前期では小竹貝塚のすぐ近くに潟湖（旧放生津潟）が広がっていました。潟湖は縄文海進によって海水で満たされた湾域に、いく列もの砂州が徐々に形成されたことにより生じたもので、砂州の途切れた部分からは海水が流入して、淡水と海水が入り混じる汽水となっていました。時代が新しくなると放生津潟は面積を狭めていきますが、『新湊市史』では、放生津潟が江戸時代にはハゼ、フナ、ボラ、シジミ、ウナギの天然の養殖場であり、潟辺の人々の中にはこれを獲って生計を営む者もいたようであると記されていることや、昭和30年代の富山新港建設工事が始まるまではシジミ漁が行われていた記録があることから、潟を漁場とした生活がつい最近まで続いていたことがわかります。



2014年に発行された『小竹貝塚発掘調査報告』では、破片総数約3万点もの魚骨が出土したことが報告され、掲載された円グラフからは淡水・汽水域で獲れる魚が57%、沿岸部で獲れる魚が39%との結果が確認できます。これらの魚はどこで獲られたのでしょうか。魚骨から判明した魚の生息域を前掲の地図に重ねていきます。(黒枠で表示)



おもな分類	おもな魚
コイ科	コイ フナ ウグイ
フナ属	ギンブナ キンブナ
スズキ属	スズキ ヒラスズキ
クロダイ属	クロダイ キチヌ
サケ科	サケ サクラマス アマゴ イワナ
タイ科	マダイ チダイ
エイ・サメ類	ネズミザメ アオザメ トビエイ アカエイ
ニシン科	ニシン マイワシ コノシロ
カタクチイワシ科	カタクチイワシ
フグ科	マフグ クサフグ トラフグ
アジ科	マアジ マルアジ ブリ
サバ科	サバ属 (マサバ ゴマサバ) マグロ属 カツオ属
その他	ヒラメ科 (ヒラメ) カレイ科 (アカガレイ) ポラ科 (ポラ) イシダイ属 (イシダイ) コシヨウダイ属 (コシヨウダイ) コチ科 (マゴチ) カワハギ科 (カワハギ)
海獣類	カマイルカ ハナゴンドウ ハンドウイルカ

小竹貝塚に住む人々は前面に潟湖、背後に丘陵と小河川という立地を生かし、日常は最寄りの潟湖を主な漁場として淡水・汽水域に生息する魚や遡上性魚を獲り、沿岸部でも富山湾の海の幸を獲っていました。また富山湾に時々侵入する、沖合を回遊するカツオやマグロ、海獣類も獲っていたようです。これらの魚を人々はどのような道具を使用して獲っていたのでしょうか。次回に考えていきたいと思ひます。(高柳由紀子)